

立志会代表
近藤栄紀議員



● 人口減少対策について (子育て支援について) ● 公共施設等総合管理計画の策定について ● 今後の勝山における農業について

そのほかの質問

- ・平成28年度当初予算編成について
- ・人口の減少対策について(若年層Iターン者向け支援について)
- ・道の駅「恐竜渓谷ジオパーク(仮称)」について

代表質問

問 市は重要施策の一つに子育て支援日本一政策を掲げているが、他の自治体よりさらに魅力ある大胆な施策が望まれると思う。また、他へのPR方法は。

答 新規事業として子育て世代包括支援センターを開設、市内では最初となる幼児連携型認定こども園「しろきこども園」が開所する。また、保育料について従来から国の徴収基準額よりも大きく減額した保育料としているが、新年度より低所得世帯のうち、多子世帯やひとり親世帯等の方について保育料の軽減を拡充する。PRについては機会あるごとに周知しているが、十分に知られていないと言えない。今後ホームページでも子育て支援日本一のバナーを設け、子育て施策について広く知らせていく。

問 市が保有する公共施設等の更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行い、財政負担を軽減、平準化し最適な施設の配置を実現する必要がある。公共施設等総合管理計画の策定状況を問う。

答 従前より本市において施設の縮減を進める中、総務省より施設の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行い、公共施設等の最適な配置を実現することにより財政負担の軽減・平準化

を目的とした「公共施設等総合管理計画」の策定に取り組むよう要請が行われた。当市では、昨年8月より計画策定に着手し、各施設の現状把握や今後の改修経費の算定等のとりまとめを進めており、今定例会中に中間報告を行い、今後、最終のとりまとめ作業を行う予定。

問 TPP発効後の福井県内のコメの生産減少など影響が懸念されるなか、勝山市においても国や県の各種支援制度を活用するとともに、独自に支援策を検討すべきと考えるが、具体的な計画策定を問う。

答 国や県の農業支援制度を利用するとともに、市独自の施策である「特産作物生産拡大事業」等を活用し、勝山の農業の振興に向けての取組みを推進していく。

また、勝山市農業再生協議会などと連携し、農業振興における課題を整理し対策を講じる。食育推進会議では、農業体験や田舎暮らし体験を通じた農業の大切さの周知及び地産地消の拡大などの取組みについて情報共有・発信を図りつつ、直売所・加工所関係者連絡会などを催すなど、今後も、様々な機会を通じて勝山の農業を支える仕組みづくり

に取り組む。

北谷町コミュニティセンターは、北谷公民館の機能を併せ持ちながら、北谷町住民及び関係者が主体となつたまちづくり活動及び交流事業の拠点施設として、昨年5月11日に落成し、物販施設は少し遅れて7月31日にスタートした。オープン後からこれまでの運営の現状について伺う。

市政会代表
丸山忠男議員



● 北谷町コミュニティセンターについて ● 超高齢化社会に向けた勝山市の取り組みについて

そのほかの質問

- ・平成28年度当初予算案について
- ・後期高齢者医療保険料について
- ・第2恐竜博物館について

代表質問

問 北谷町コミュニティセンターは、北谷公民館の機能を併せ持ちながら、北谷町住民及び関係者が主体となつたまちづくり活動及び交流事業の拠点施設として、昨年5月11日に落成し、物販施設は少し遅れて7月31日にスタートした。オープン後からこれまでの運営の現状について伺う。

答 「NPOきただに村」を中心に、地元農産物および周辺地域も含めた特産品の販売、各種交流事業、観光PRなどのまちづくり活動も積極的に展開され、地元の人々のみならず、国道157号を往来する多くの観光客、ドライバーらへの案内機能を備えた休憩所またはお土産処として、週末や観光シーズンなどには、賑わいを見せている。

問 まちづくり機能と公民館機能を併せ持つ二つの組織が共存してのスタートとなつたコミュニティセンターだが、今後の運営方針について市長の見解を伺う。

答 センターが持つ機能を最大限に発揮できるように、次の指定管理期間となる平成29年度以降の管理運営体制を見据えながら、北谷町および指定管理者からの意見、要望をお聞きする中で、北谷町がさまざまな活動に取り組みやすい体制づくりを積極的に進めていきたい。

問 2025年には高齢化率、要介護認定率がますます増え、国は要介護になつても在宅で介護ができるように「地域包括ケアシステム」の構築の実現を目指している。今後の超高齢社会に向けた勝山市の取り組みについて見解を伺う。

答 「高齢者の自立支援」として、健康の駅「湯つたり勝山」でのお出かけサロン事業、サンプラザ内でのまちなかカフェの実施、日常生活圏域を単位とした第2層の生活支援コーディネートとして地区社協コーディネーターとして地区社協コーディネーターを位置づけ、地域での生活に必要なサービスの調整や民間の活力を活かし、生活支援の充実を図り介護予防の強化に取り組んでいく。

「高齢者介護体制の充実」として「ケアブレイクかつちやま」では、高齢者が住みやすいまちづくりと地域包括ケアの実現に向け、現在話し合い等を行っている。また、湯つたり勝山で認知症カフェの実施や認知症に関する相談に対応している。

「高齢者総合相談・支援の充実」として、地域包括支援センターの機能強化を図り、相談窓口の充実や高齢者虐待防止、成年後見制度の周知に努めている。住み慣れた勝山市で誰もが安心して過ごせるまちにするためには、市民が参画した地域づくりが重要。2025年を見据えて、「安心して暮らせる長寿社会の実現」に向け取り組む。

「高齢者の自立支援」として、健康の駅「湯つたり勝山」でのお出かけサロン事業、サンプラザ内でのまちなかカフェの実施、日常生活圏域を単位とした第2層の生活支援コーディネートとして地区社協コーディネーターを位置づけ、地域での生活に必要なサービスの調整や民間の活力を活かし、生活支援の充実を図り介護予防の強化に取り組んでいく。

「高齢者総合相談・支援の充実」として、地域包括支援センターの機能強化を図り、相談窓口の充実や高齢者虐待防止、成年後見制度の周知に努めている。住み慣れた勝山市で誰もが安心して過ごせるまちにするためには、市民が参画した地域づくりが重要。2025年を見据えて、「安心して暮らせる長寿社会の実現」に向け取り組む。